



2020 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門 第5戦・6戦

開催場所 スポーツランド SUGO(宮城県)

開催日 10月 24日・25日

参加台数 OK クラス 28 台(エントリーは29台)

天候 土曜日 曇り時々小雨/日曜日 曇り

路面状況 土曜日 ドライ/日曜日 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督 : 佐藤奨二

ドライバー : 佐藤凌音 / 大宮賢人

メカニック : 伊藤進/橋本剛基/仁科真一

エンジン担当 : K SPEED WIN

アドバイザー : 井上寛之



2020 全日本カート選手権 第5&6戦 (スポーツランド SUGO)

2020全日本カート選手権もついに折り返し。新型コロナウィルスの影響で開幕が遅れ、ここからのSUGO、もてぎ、鈴鹿大会は秋から冬へと変わる例年よりも気温が低い大会となりそうだ。とりわけここスポーツランド SUGO は過去に佐々木選手を擁し計 5 勝を挙げた我々チームやマテリアルにとっても相性のいいサーキット。佐藤凌音、大宮賢人の若きスピードある両選手で表彰台を狙いたいところ。チームは水曜日にコース入り、ピットの設営などをこなし木曜日早朝より両選手が走行を開始。この日はドライ、両選手ともにスピードがあり好調だ。金曜日は予報通りの雨。このレー

スウェークは金曜日のみに雨マークとあって各チームは雨での走行は多くない。チームは大宮選手のみが走行。終始グリップが不足したが、今週はこれ以上のウェットコンディションがないと判断しセッティングの深い追及はやめ、翌日土曜日のドライコンディションへのマシンセットアップとチーム内ミーティングに時間を費やした。土曜日、早朝は路面もまだ濡れていたものの、OK クラスの 2 つある走行の前には完全にドライコンディションに。気持ちいい秋晴れの下、土曜日のスケジュールが始まった。朝の公式練習では大宮のタイムが良く TOP まで0.08に迫るタイム。しかしコンマ1秒以内になんと13台のマシンが入る超接戦…。タイムトライアルの場所取りやタイヤのベストタイミングでの細かなミス一つで上位にも下位にもなりえれる流石の最高峰カテゴリー。ルーキーの大宮に続き持ち前のスピードを発揮してほしい佐藤であるが、今一つ波にのれない。佐藤、大宮の両選手はくじ引きの結果両者ともに A 組でのタイムトライアルにのぞむ。



大宮 賢人 選手



佐藤 凌音 選手

【タイムトライアル】佐藤 A 組 DNS(全体27位) / 大宮 A 組 10位(全体11位)



土曜日のお昼ごろから急に天気予報が変わり始める…。時折だが風とともに小雨が顔に感じるようになる。雨雲レーダーはいつ降り出してもおかしくないようなデータを示すが、なんとか持ちこたえ土曜日の午後 2 時 25 分に前述の通り佐藤、大宮両選手はタイムトライアル A 組で計測をスタート。コースインは計測開始から約 3 分。大宮選手はタイヤを温めるウォームアップラン中。しかしここで佐藤がバックストレートエンドでスローダウン…。マシンを止める…。どうやらエンジンをかぶらせたようだ。OK クラスのタイムトライアルは第5戦、第6戦とともに予選のスタート位置を決める大変重要な順位決め…。佐藤もそれを重々承知しているだけにがっくりと肩を落とし安全なエリアでタイムトライアルを見つめる。チームメイトの大宮は先ほどの公式練習では TOP と 0.08秒差の 4 位。コンマ1秒のなかに10台以上がひしめく OK クラスでは僅かなミスも許されない…。もちろんチームもドライバーもそんなことは自覚しているが、タイムトライアルのポジション取りも若干悪いか、ややタイムの伸びがない…。結果は先ほどの公式練習よりコンマ1秒遅く A 組の 10 位に…。先ほどと同じタイムならば TOP 5 圏内だっただけに悔やまれる…。A 組タイムトライアルの終了直後から、天候は本当に今にも降り出しそうな状況に…。マシン回収の許可がおりと佐藤担当メカが猛ダッシュでマシンの回収を行った。ライバルといえど、マシン回収が遅れ B 組のスタート時間が遅れて雨が降り出すと他チームにも選手にも失礼だからだ。結果、B 組のタイムトライアルの計測開始の十分前にマシンを回収した。ここからは B 組の選手には本当に申し訳ない記載だが、B 組コースイン直後から小雨が降り始め、僅か数分で路面は湿り気を帯びた軽いハーフウェット状態へ…。しかも B 組に A 組と遜色ないタイムを早々にだした選手が現れ B 組の101%ルール適用もなくなり、大幅にポジションを落とすかと思われた大宮が A、B 組共通でも 11 位と当選手にとって幸運な形に…。B 組の選手にはなんとも申し訳ないような結果となった。

【第5戦 予選】佐藤14位 / 大宮 DNS

土曜日の最後のスケジュールとなる OK クラス第5 戰の予選は 16 時前にスタート。タイムトライアル B 組で降り出した小雨は、B 組の選手達には本当に気の毒としか思えない B 組タイムトライアルだけの雨で、タイムトライアルが終わると雨も降りやむというカートレースに20年以上携わる私も初めて見る状態…。予選のコンディションはドライだが先ほどのタイムトライアルと比べると格段に気温が下がってきてている。大宮はこ

選でいい走りをして、さらにスピードを磨いて欲しいところであったが、ローリング中に失速…。タイムトライ



アル中の佐藤に続いて今度は大宮がエンジンをかぶらせてスタート前に無念のリタイヤとなった。この予選ヒートでは大宮を含む7名の選手がかぶりと思われる症状でストップするなど波乱もあった。一方タイムトライアルでマシンを止めてしまい最後列から追い上げるしかない佐藤もどうやらローリング中にストール寸前までいった模様だが何とかキャブ調整がうまくいきレーススタート。佐藤のスタートもまずまずでオープニングラップで順位は21位へ。その後のペースもまずまずで順調に前のマシンをパス。結局14位ゴールとなった。タイヤのコンディションも良好で翌日の決勝に望みをかける。



【第5戦 決勝】佐藤15位 / 大宮20位(F スポイラー脱落ペナルティ)



全日本カート選手権OKクラス第5戦決勝は日付が変わり日曜日の午前10時前にレーススタート。昨日の予選で14位ゴールの佐藤凌音はスタート直後の2コーナーで行き場を失ってしまい、弾かれるように後方へドロップしてしまう…。一方、チームメイトの大宮は昨日の予選ストップにより23番手スタート。同じくローリング中にストップした選手の多くが大宮よりタイムトライアル成績が下位で、最後列スタートを免れた形だ。スタートに成功しスタート直後の4~5コーナーでは13~15位に位置し、いきなりTOP10圏内でオープニングラップを終えるような勢いであったが、その後ポジショニングにも戸惑い、結局オープニングラップを14位で帰ってくる。スピードもありそうだ。一方のスタート直後に弾かれてしまった佐藤はオープニングラップをまさかの27位で帰ってくる。その後もペースがなかなか上がりず、苦しんでいる。トップ集団からはコンマ2~3遅いペース。それでも苦しみながらじわじわと順位を上げる。大宮の方はタイヤがあることもありペースは上々。安定してトップ集団と同じタイムは出ている模様。佐藤、大宮ともにじわじわ追い上げゴール。大宮は10位にてゴールしたが、残念ながらフロントspoilerが脱落しておりペナルティで5秒加算となり20位へ。佐藤は昨年から通しても最も苦しんだともいえる走りで15位。両選手ともに悔しい結果となった。



【第6戦 予選】佐藤22位 / 大宮4位



第6戦の予選はこの日、OK の走行時間でもっとも日が高く路面温度が高いであろう11時過ぎ。この後の決勝は日も傾き始めるであろう 15 時台なのだ。第6戦の予選はタイムトライアル結果からの仕切り直し。大宮は 11 番手、佐藤には辛い最後列スタートとなる。大宮のマシンはフロントまわりを若干のセットチェンジ。アッカーマンを微妙に変更し、上位進出を狙う。予選レースは1周のディレイの後にスタート。少しだけスピードが速いスタートだったか、スタート直後から隊列がばらける。11番手スタートの大宮はまずまずのスタート。直後の4コーナーはアウトながらコース取りがよく前方のマシンをパッシング。しかしバックストレートエンドでは若干無理なパッシングで逆に最終セクション前に順位を落としオープニングラップはスタートと同じ11位で帰ってくる。一方の佐藤はつらい…。何故かペースが上がらない…先ほどの決勝よりもTOP集団とのタイム差には開きがある…。本人が一番悔しいとは思うが今一度自分の長所を取り戻し完全復活のレースをしてほしいと思う。チームメイトの大宮はこの予選、セットチェンジのおかげもあるのか、非常に好調の動きに見える。トップの選手よりもコンマ2秒速いペースで追い上げ、なんと 4 位にまで食い込んだ。決勝にも期待がもてるレース後のタイヤコンディション。素晴らしい予選だった。

【第6戦 決勝】佐藤17位/ 大宮 14位(F スポイラー脱落ペナルティ)

第6戦の決勝はやはり日が傾いてきた。しかし想像以上に気温は低くない。レーススタートは今回も少しペースが速く、予選と同じく1コーナーまでに各マシンは軽くばらけながら突っ込んでいく。4位スタートの大宮は1~2コーナーで1台にパスされるものの、オープニングラップの4コーナーで1台、次の5コーナーでもう1台をパスし一気に3位に浮上！と思いつきやその直後に膨らんでしまい、アウトサイドのダートにあしを落とし8位でオープニングラップをおえる。しかしスペシャルタイヤをダートに落とした影響は大きく、その後はしばらくは苦しいレースが続き一時は11位にまで順位を下げる。また予選で苦しかったチームメイトの佐藤はこの決勝でも苦しむ…。すべてが空回りし、いつもの鋭さも影をひそめる。なんとかトラブルでストップしたマシンやじわじわとした追い上げで 17 位に食い込むも本来の走りには程遠かった。大宮は周回を重ねるごとに速さを取り戻し、じわじわと追い上げ 7 位。最後はレース展開がもつれ8位となった。2 位の選手より大宮のタイムは速く、オープニングラップのミスが悔やまれる展開…。そして車検場では残念ながらフロントspoiler脱落ペナルティとなり、さらに順位を下げて14 位となった。今大会、気温&路面温度の寒暖差やいつもの夏に開催される SUGO ではないコンディションで戸惑いはしましたが、第 6 戦では大宮選手がスピードを見せました。あと一步、もう少しが遠いですが、次戦はひと月もたたないうちに栃木県のツインリンクもてぎ大会。今より更に寒いコンディションになるとは思いますが、チーム&ドライバーともども反省と経験を活かして上位進出したいと思います。今大会も多くの方より応援賜りまして本当にありがとうございました！シーズンも折り返しましたが、コロナで大変な年にも関わらずレースが出来る有り難さを常に持ちながらレースに臨みたいと思います！今後とも引き続きご声援、応援よろしくお願ひいたします。



ドライバー 佐藤 凌音 コメント



今回の菅生大会では速さ以外にも、自分の弱さやレースに対する考え方の甘さが大きく出たレースとなりました。そしてレース以前の自己管理等も欠けておりとても悔しく思っています。次の大会ではこの悔しさを糧に自分に出来る事を全てして勝ちます。今大会も応援して下さった皆様。スポンサーの皆様。チームの皆様。多大なるサポートありがとうございました。

ドライバー 大宮 賢人 コメント



今回、レース1もレース2もペースは悪くなかったのですが、レース1の予選ではキャブのミスをしてしまい、レース2では前のドライバーを抜きに行った時に飛び出しました。今回の事を反省してもっと次戦までにレベルアップします。次の茂木は表彰台乗れるように頑張ります。ありがとうございました。

INTREPID JAPAN CORSE 佐藤奨二 監督



今回の菅生大会は表彰台まであと少しの所まで行く内容でしたが、結果に繋げる事が出来なかったのが、とても残念でなりません。チームとしてもう少し何かが足りないと痛感し結果に繋げる為に更なる改善をして次戦もてぎ大会までには問題点を克服してチーム一丸で臨みたいと思います。最後にいつも多大なるご支援を頂いておりますスポンサーの皆様のサポートに大変感謝申し上げます。



TOKAIDENSO
<http://www.tokaidenso.co.jp>

WORKS BAND SEA AIR

FUCHS Silkolene

G-wrap

GLARE GLASSPLEXIN

sinter

GREYHOUND RACING SEATS MAKES THE DIFFERENCE

Triple K

MOLECULE KEEP IT CLEAN

KE Technology

Scuderia Scuderia

EZUP

DISPLAY SATOH